



**先**日、私の高校時代の恩師の息子さんが突然訪ねて来ました。実は彼は今、礼文島で漁師をしているそうです。私と同じ東京出身の彼もここ北海道で漁師をしている…。会って話をしていると何とも言えない不思議な感じをおぼえました。彼も私もこの高校の先生をしているひとりの人間に少なからずの影響を受けている。もちろん、彼は親と子という関係で。私は先生と生徒という関係で。

前回、前々回のお話では、「子は親の鏡」「子どもは親の背中を見て育つ」ということを取り上げただけ、今号では、先生、生徒という関係を先生という職業をふまえながら、私なりに考えてみました。

私の中学校から高校2年生ぐらまでの将来の夢。それは、学校の先生でした。どうしてかという、素晴らしい先生たちに出会っていたからだと思います。そんな先生のように将来自分もなりたかった！というのが理由でした。もちろん、最初にお話した礼文島の漁師の父である方もそのひとり。学生時代は親と接する時間以上に先生と学校で接する時間は多いです。その分、親よりも直接的な影響というのは、先生から多く受けていたような気がします。



**高**校時代の話をしますと、私の高校は東京でも有数の進学校だったのですが、学校の授業でほとんど勉強はしませんでした。ある国語の先生は、学生時代は「ただただ本を読め！」というのが口癖で、授業は教科書を一切無視。1冊の本を題材にその背景や登場人物の心理状態を考えさせ、生徒皆でディスカッションさせました。先生が生徒に何を伝えたかったのか、今はよく理解できます。ほんとと変わった高校でした。その様子は、高校の後輩

である乙武洋匡君の「五体不満足」という本の中にも書いてあります。機会があったら見てください。私は先生にかなりの影響を受けて、ここまで来たと思っています。それだけ大変な仕事だと先生という職業について感じています。だから先生という職業をほんとと尊敬しています。

**写**真は浦幌小学校の先生たちです。皆さん真剣な表情ですよね。放課後遅い時間でも、夜になっても、職員室は先生たちでいっぱいでした。子どもたちを預けているひとりの親として、自分たちの子どもたちのためにここまでしてくれる先生たちに心から感謝したい！と正直思いました。

子どもたちに全力でぶつかって行くから、子どもたちにも伝わる！きっとそれは、先生も親も一緒なんだろうな～。親の背中と同様に子どもたちは確実に先生たちの背中を見て育っているはず。だから、先生たちにひとつお願いしたいことがあります。もっと、もっと、もっと、もっと、浦幌に興味を持ってください。先生が浦幌にもっと、もっと興味を持ったら、きっとそれは子どもたちにも伝わるはず。子どもたちもこの故郷「うらほろ」にもっと、もっと興味を持つはず。ぜひ先生たちが感じた浦幌の良さを子どもたちに今以上に発信してください。

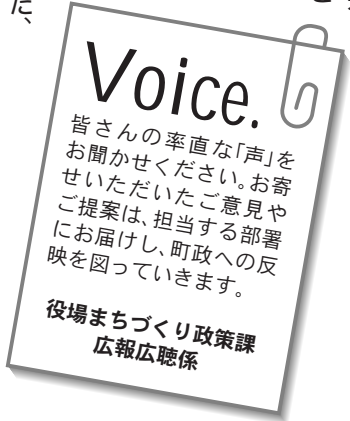
写真・文 おうみ まさたか 近江 正隆 **カッコイイ  
人・顔・仕事!**

1歳未満児の集まれる場所を...

去年出産して、4か月になる頃から赤ちゃんサロンへ遊びに行っています。2人目をお持ちの母さんとか、浦幌町出身の方はお友達がいるようですが、私は町外出身で同じくらいのお子さんを持つお母さん友達がいません。

赤ちゃんサロンに行くとお話しはできますが、2週間に1回ではなかなか親しくなれません。毎週開催することはできないでしょうか。

赤ちゃんサロンは、お子さんやお母さん同士が交流でき、育児の情報交換ができることを目的として毎月第2、第4火曜日の午前中に行っています。赤ちゃんサロンは、様々な年齢のお子さんが来られているので、お座りは「のくらの月齢でできるよ」になるのね。」とか、「つかまり立ちはこのくらい」の時期になったらできるのね。」など、月齢の小さいお子さんのお母さん方は、いろいろな気づきを



お子さんも、お互いを意識して遊んだり、声もたくさん出してお話したりと、家とは違った環境にいることで刺激をいっぱい受ける機会になっているようです。

「ご意見をいただいた赤ちゃんサロンの回数ですが、11月から第1、3火曜日の午前中も、赤ちゃんサロンを行っている部屋を自由に使用しているようにします。内容はもう少し時間をかけて検討していきたいと思っていますが、それまでの間保健師、栄養士が時々入らせていただくかたちで、お母さんと赤ちゃんが自由に集まっていたら、お互い交流や情報交換をしていただきたいと思います。」

COLUMN

このコラムも4回目。男女共同参画について、みなさんの意識に変化はあったでしょうか。今回のコラムでは、人の意識が変わるにはどんな心の動きが必要なのか考えてみました。

さて、男女共同参画には意識の改革が必要、などとよくいわれます。しかし、人の意識を変えるのはなかなか難しいことです。

なぜなら人間には自分の気持ちと矛盾している考え方や事柄は極力排除しようとし、逆に自分の気持ちと同じような考え方や事柄を積極的に情報として取り込もうとする傾向があるからです。これは難しい言葉で「認知的不協和理論」といいます。例えば、タバコを吸う人にとって「タバコの害」について説得しても、あまり耳を傾けられないということがあります。これは、タバコを吸いたいという気持ちと、タバコの害についての情報は自分の主義や主張と合わない不快な状態（不協和状態）なので、自分の気持ちに合う情報、例えば「タバコを吸っても長生きをした人がいる」という話を、正しい情

男女共同参画コラム

vol.4

報だと信じ込もうとする心の動きによるものです。

私たちが見聞きするさまざまな情報は、実は自分でも無意識に心のふるいにかけられています。「これは自分に役立つ話だな」と思う情報を取り込み、なるべく「自分にとってあまり必要でない話」は心に取り込まないようになっています。こうしてたくさんの方から自分に役立つ情報のみを効率よく取り込んでいくのです。これは、安定した気持ちで毎日過ごすための人間の知恵ともいえますが、情報を発信する側にとっては「どんなに情報を発信してもなかなか伝わらない」という悩みにつながっていくわけです。

「男女共同参画」というと、「難しそうだな」「よく分からないな」と感じる人が多いと思いますが、分かりやすい題材を引用しながら、男女共同参画の正しい情報を少しでも皆さんの心に取り込んでいただけたらとこのコラムを掲載しています。コラムに対する皆さんからのご意見をお待ちしています。